

全国からみた 福岡における 文化芸術活動と 文化ボランティア

第21回ふくおか県民文化祭2013アートマネジメント研修会
～「ホール」と地域&文化ボランティア～

株式会社ニッセイ基礎研究所
芸術文化プロジェクト室
准主任研究員 大澤寅雄

文化芸術と文化ボランティアをめぐる近年の動き

文化芸術と文化ボランティアをめぐる 近年の動き（2001年～）

年月	文化芸術と文化ボランティアをめぐる動き
2001年	ボランティア国際年 「国連総会で、 日本からの提案に基づき 2001年は、国際ボランティア年と決められた。(1) ボランティアの理解、(2) 参加促進のための環境整備、(3) ボランティアネットワークの強化、(4) 活動の促進 を目的としている。」
2001年 12月	文化芸術振興基本法が成立 「文化芸術の振興に当たっては、地域の人々により主体的に文化芸術活動が行われるよう配慮するとともに、各地域の歴史、風土等を反映した特色ある文化芸術の発展が図られなければならない。」
2002年2 月	河合隼雄文化庁長官が文化ボランティアの推進を提唱 「私は、文化芸術を盛んにして、日本中を元気に、楽しくしていきたい。また、皆さんの持っている潜在的な可能性を引き出す方策を考えていきたいと思っています。その中でまっさきに思ったのが、 文化ボランティアの推進 です。」
2002年 12月	文化芸術の振興に関する基本的な方針（第1次基本方針） 「国民の文化芸術活動への参画に資する文化ボランティア活動を活発にするため、各地域や文化施設等における文化ボランティア活動の場の整備、情報の提供、相互交流の推進などの環境の整備を図る。」

文化芸術と文化ボランティアをめぐる 近年の動き（2005年～）

年月	文化芸術と文化ボランティアをめぐる動き
2005年 11月	福岡県西方沖地震被災者へのアートによるサポート・プロジェクト 「福岡県西方沖地震被災者への芸術文化を通じた支援活動の一環としてアートサポートふくおかがお手伝いして、福岡市立玄界小学校の学習発表会で各学年の劇や全学年での合唱にオリジナル作品を提供し、アーティストによる指導をした。」
2007年2 月	文化芸術の振興に関する基本的な方針（第2次基本方針） 「民間部門では、非営利活動やボランティア活動などが広がったことに伴い、民間と行政の協働による新たな取組が進められ、企業のメセナ活動も多様な広がりを見せている。」
2010年 1月	民主党政権における「新しい公共」 「鳩山由紀夫首相は2010年1月29日の施政方針演説において「 新しい公共 」という言葉を取り上げ、国家戦略の柱とした。」
2011年2 月	文化芸術の振興に関する基本的な方針（第3次基本方針） 「国民の文化芸術活動への参画に資する質の高い文化ボランティア活動を活発にするため、情報提供、相互交流の推進などの環境整備を図る。」

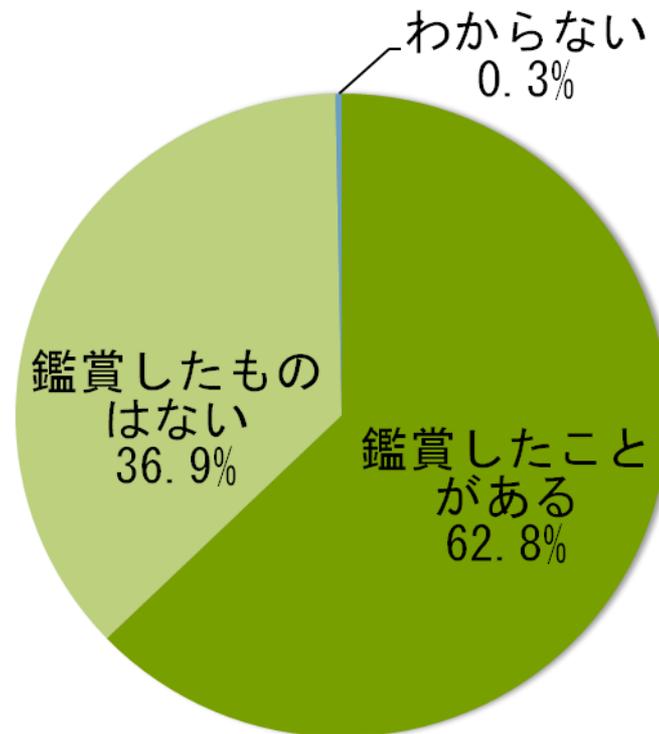
文化芸術と文化ボランティアをめぐる 近年の動き（2011年～）

年月	文化芸術と文化ボランティアをめぐる動き
2011年 3月	東日本大震災 「Twitterなどの ソーシャル・ネットワーキング・サービス では、被災者に対する呼びかけや、ボランティアや人道支援に関する呼びかけ、医師による健康相談などが行われた。」

各種の統計資料から：文化芸術活動の状況

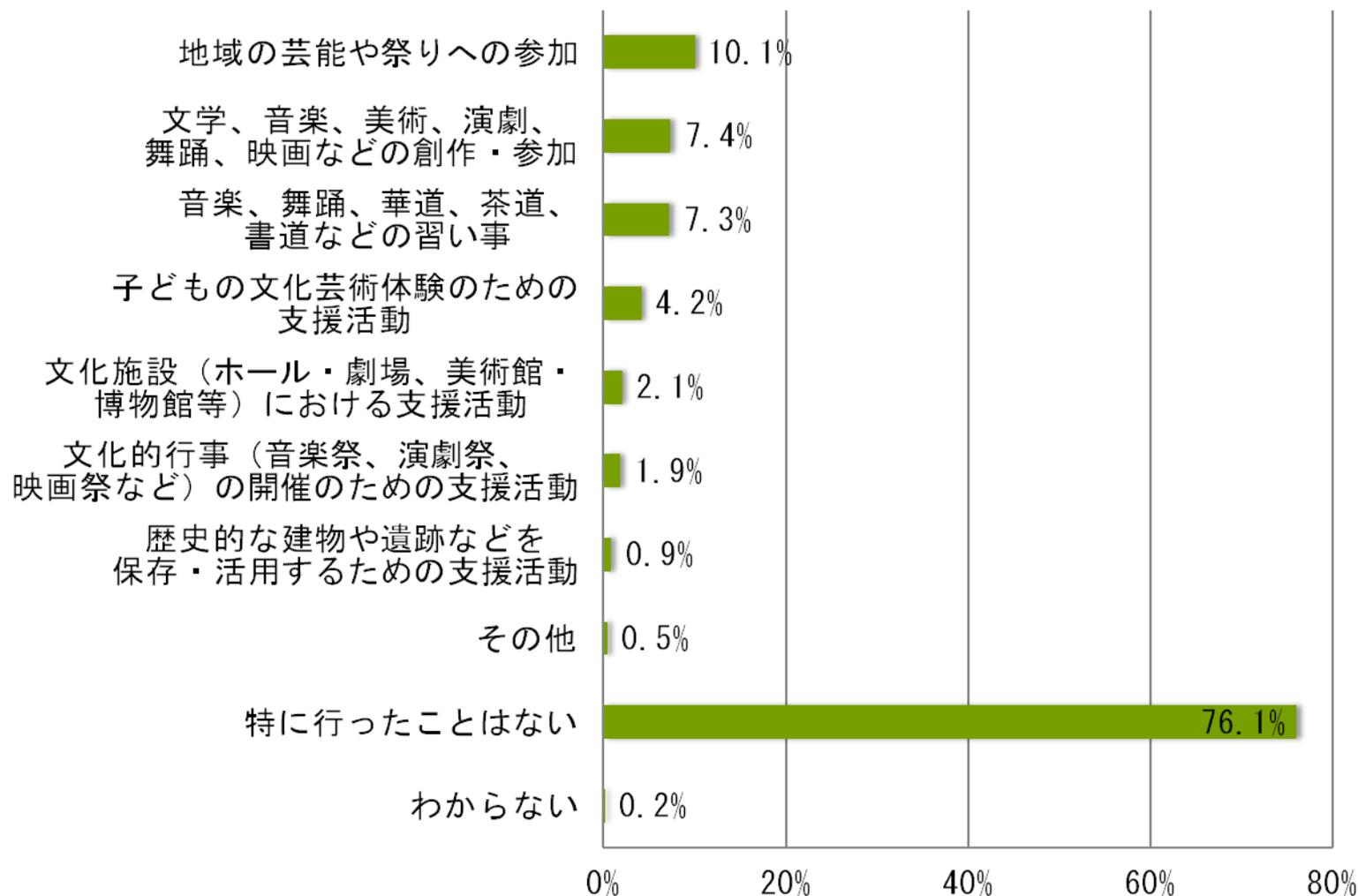
文化に関する世論調査 (内閣府、2009)

文化芸術の直接鑑賞経験



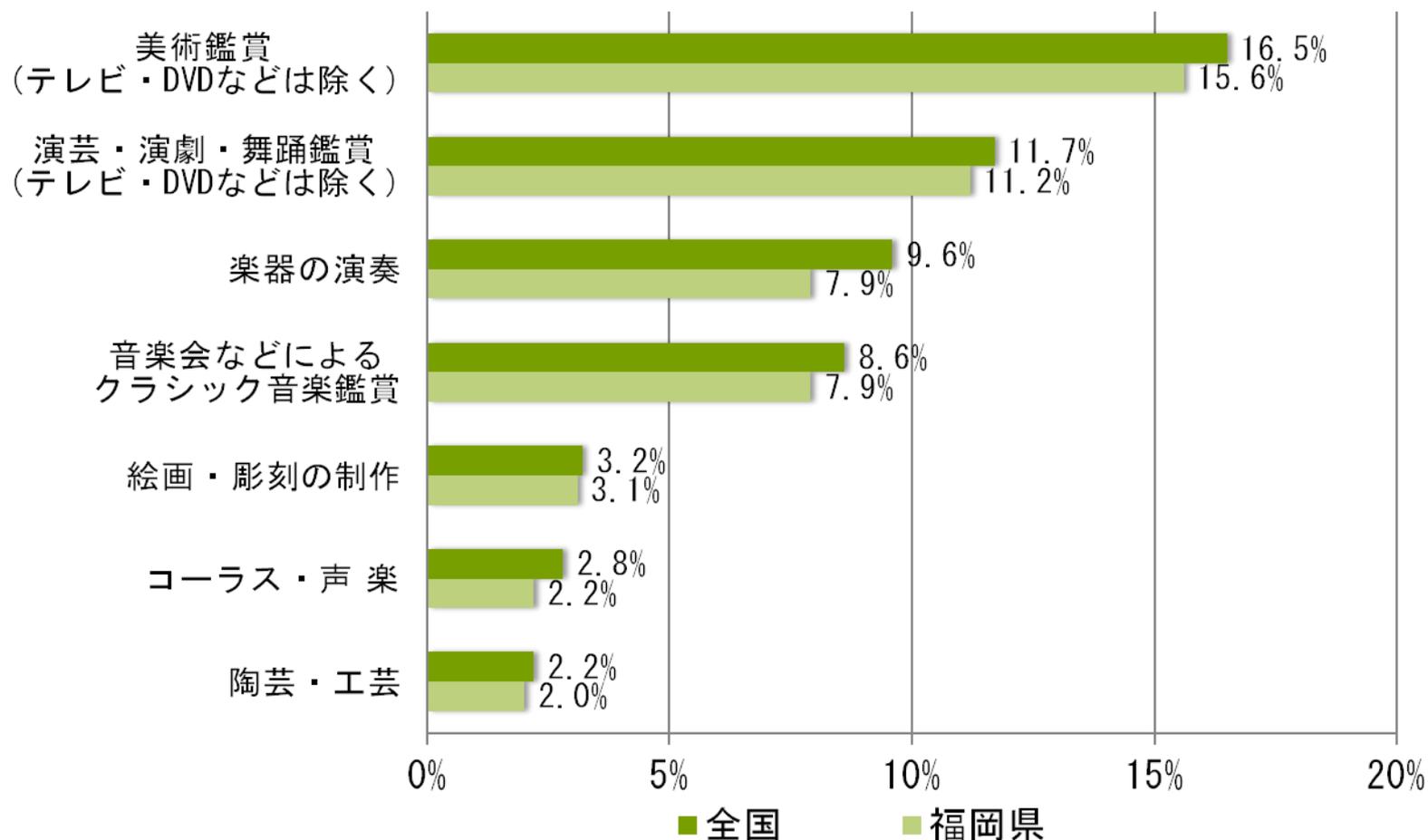
文化に関する世論調査 (内閣府、2009)

鑑賞を除く文化芸術活動の経験



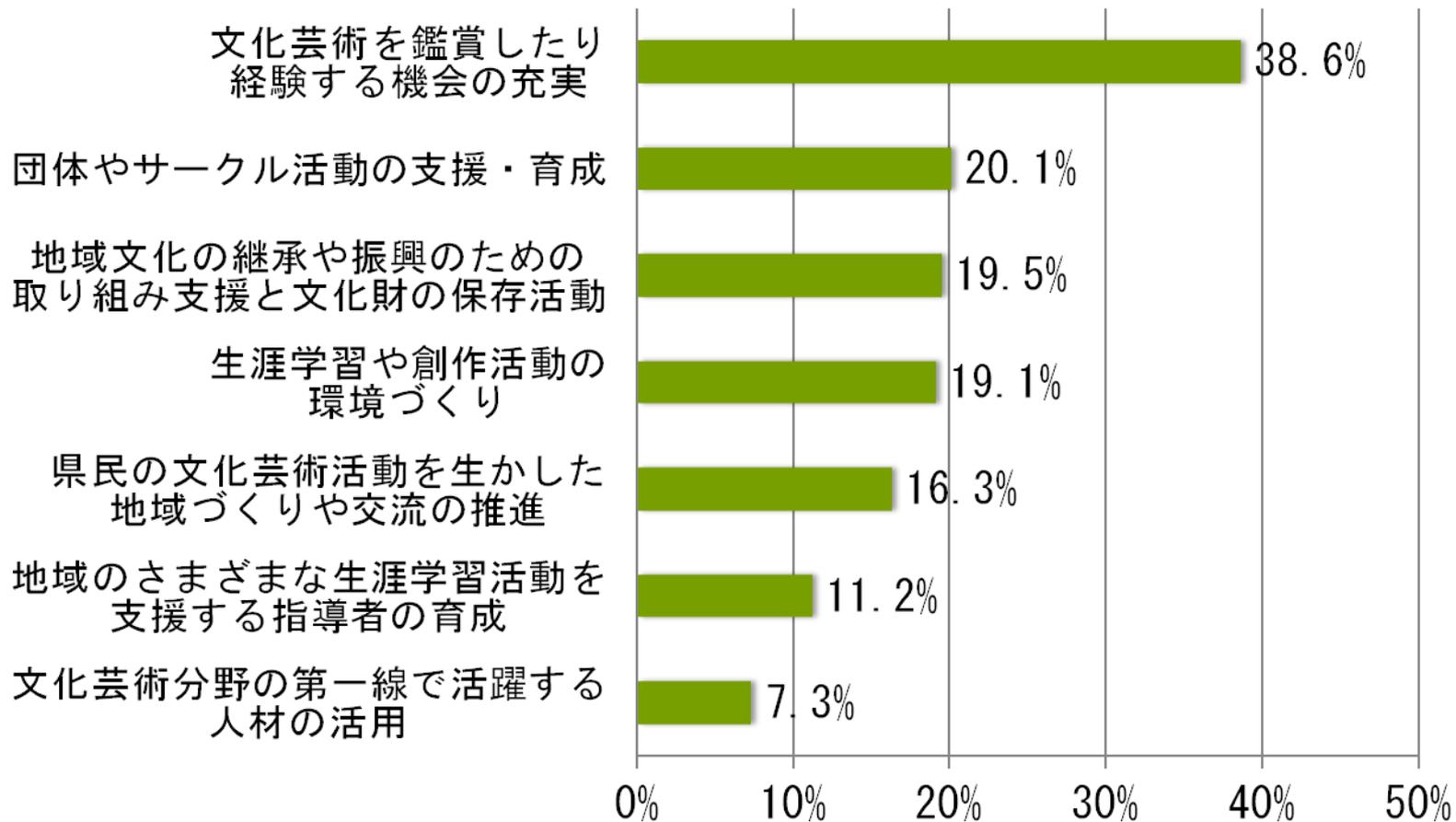
社会生活基本調査 (総務省、2011)

趣味・娯楽の種類別行動者率



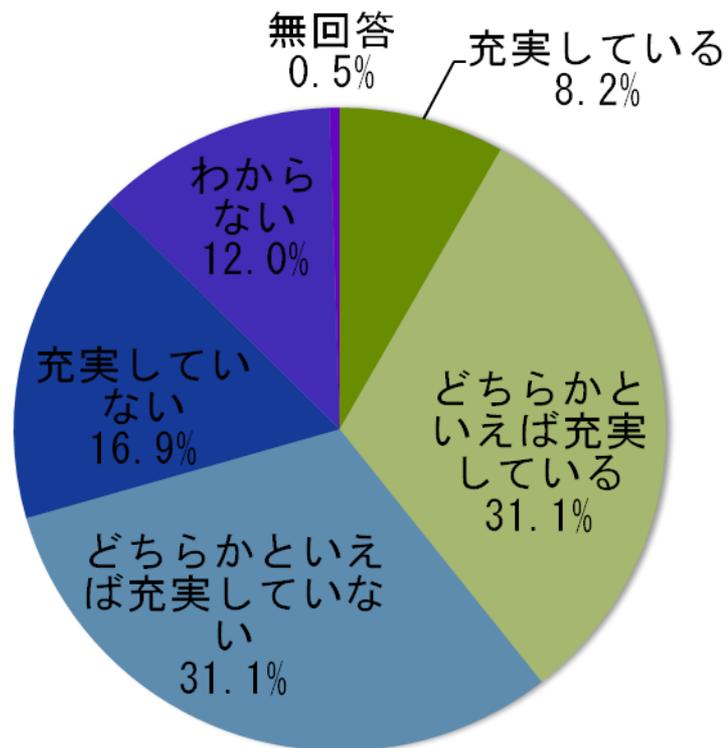
県民意識調査 (福岡県、2013)

県政の各分野において、
行政に対して力を入れてほしいこと



文化芸術に関する意識について (福岡県、2003)

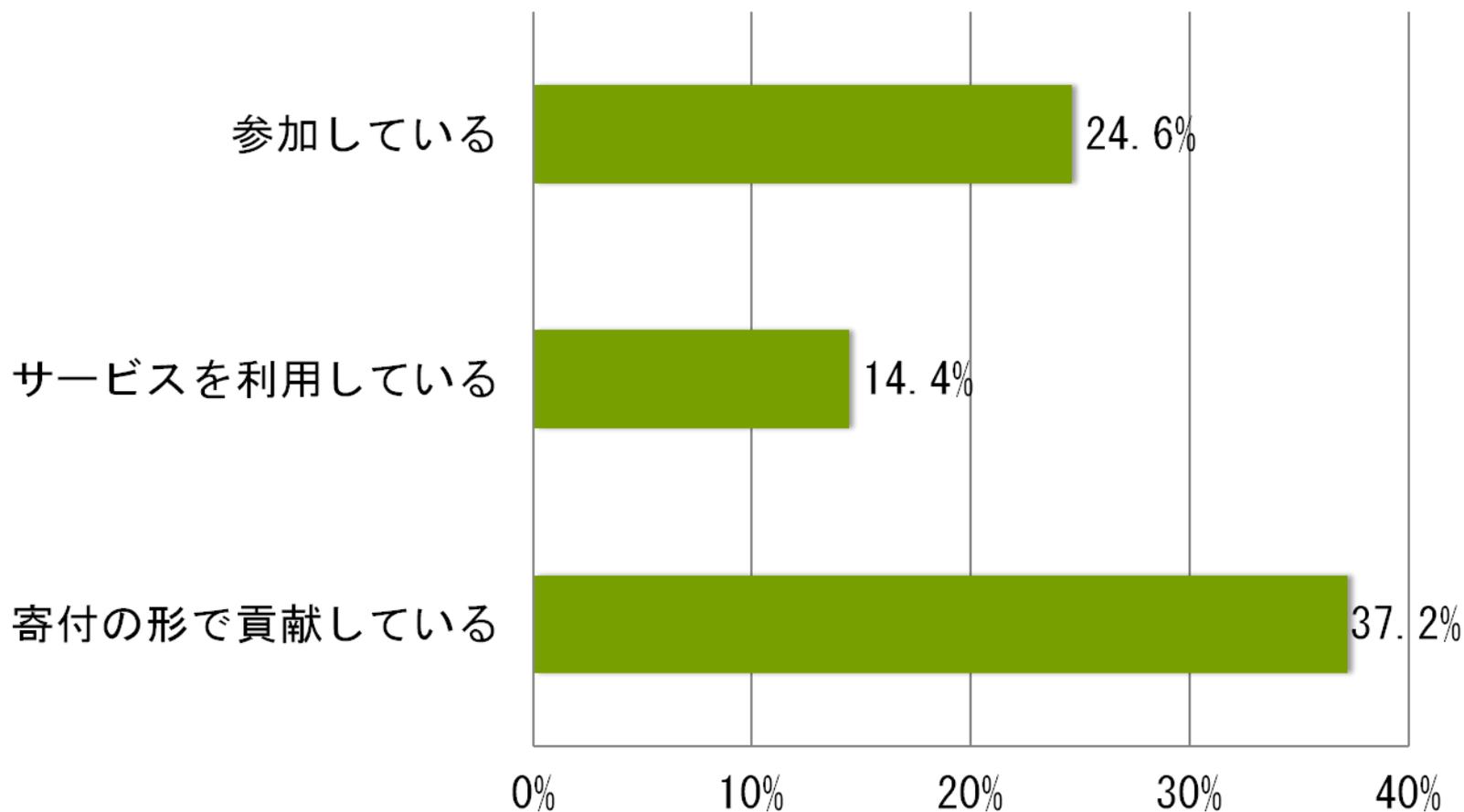
文化芸術環境の充実度



各種の統計資料から：文化ボランティアの状況

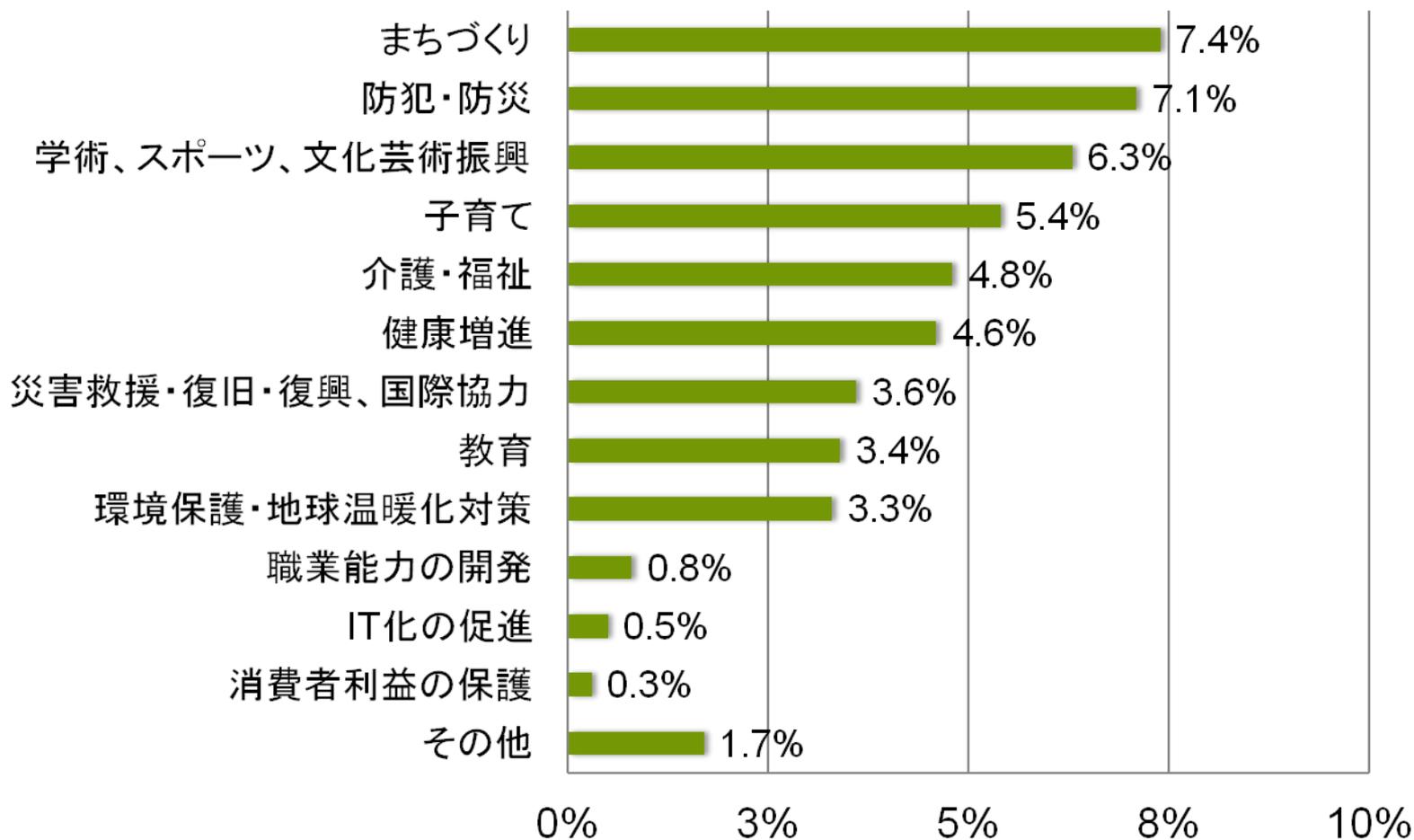
国民生活選好度調査 (内閣府、2011)

ボランティア等への参加、サービス利用、
寄附の実績



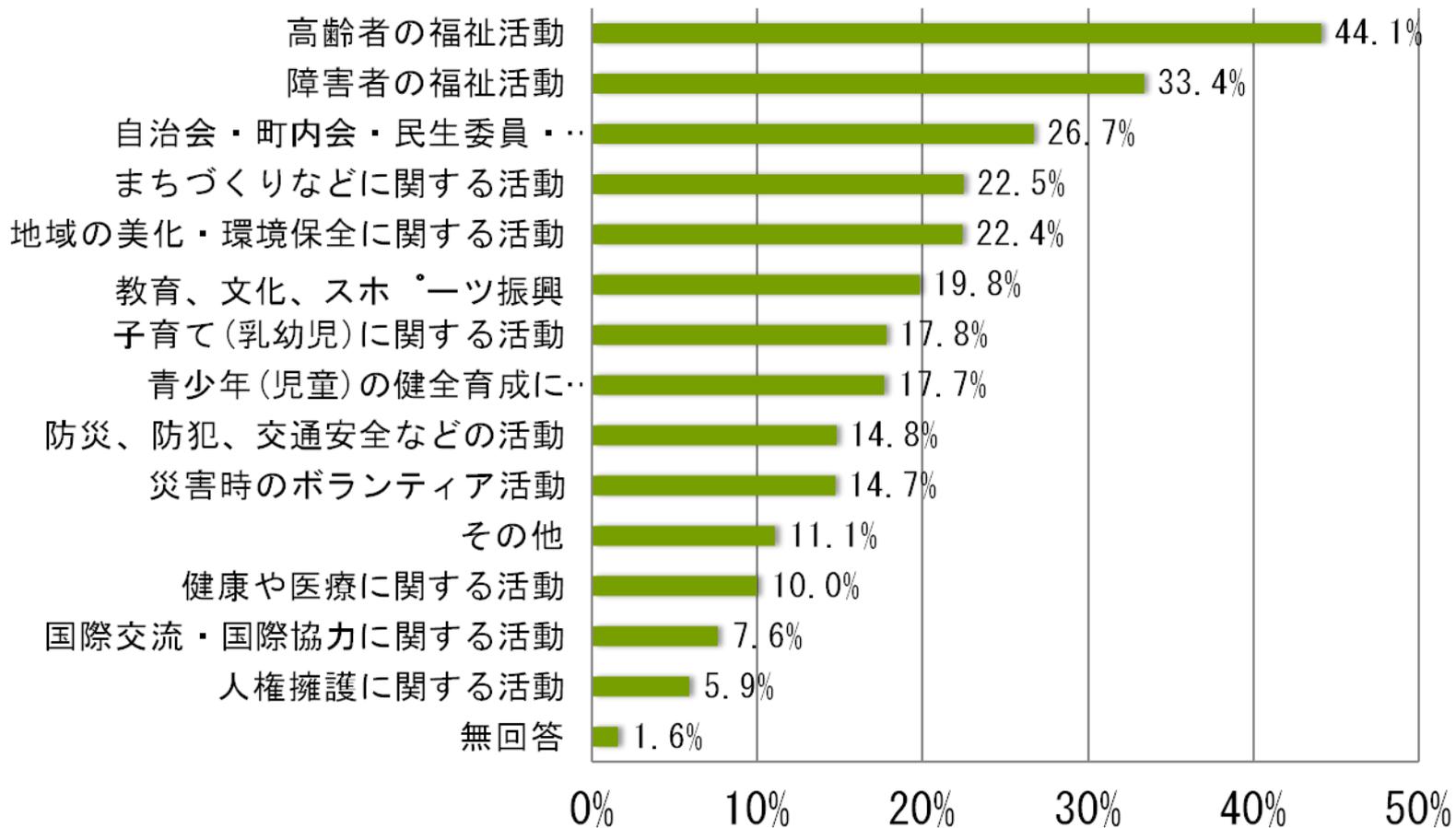
国民生活選好度調査 (内閣府、2011)

活動分野別にみた参加経験者の割合



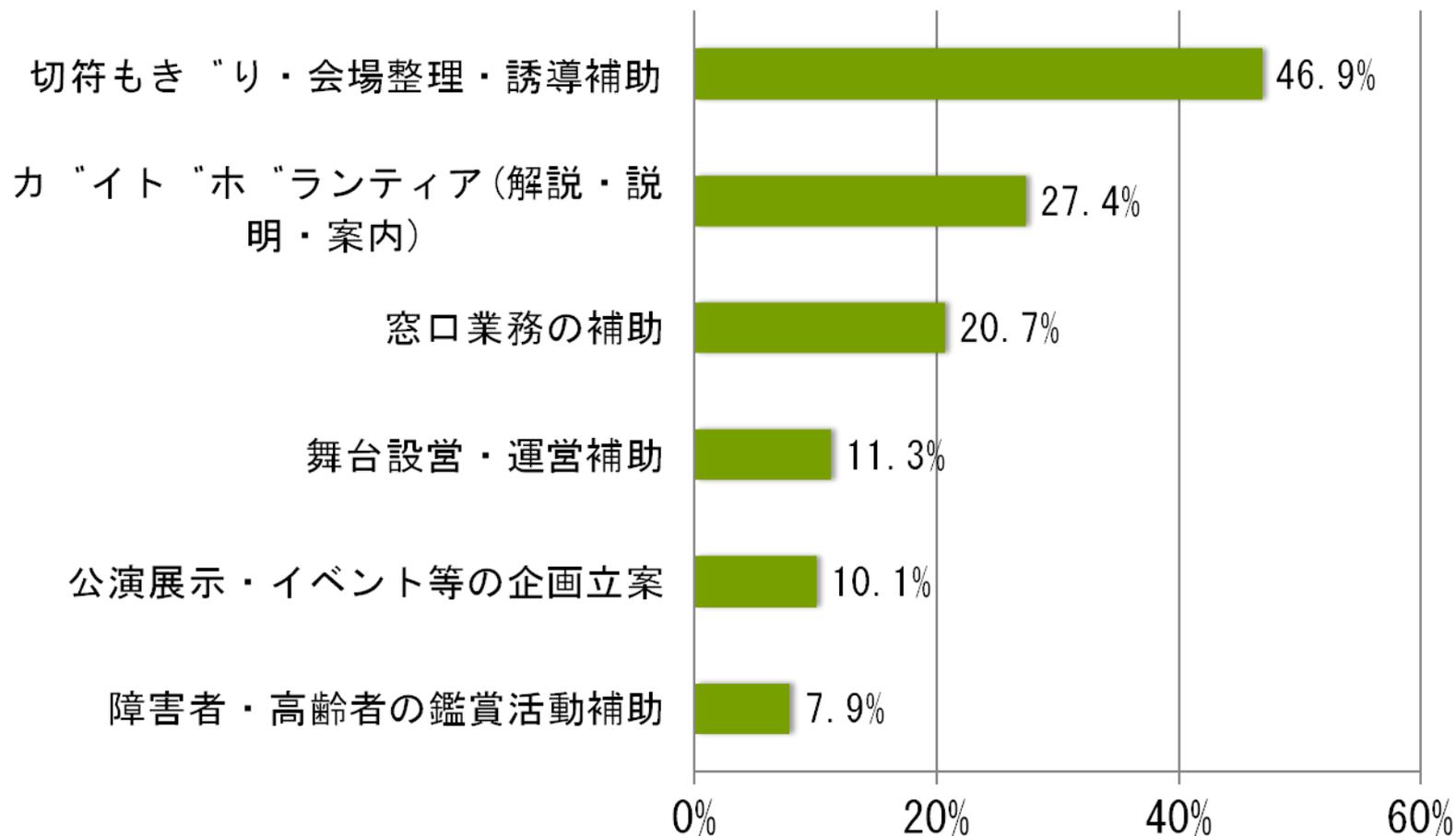
全国ボランティア活動実態調査 (全国社会福祉協議会、2010)

ボランティア活動の分野



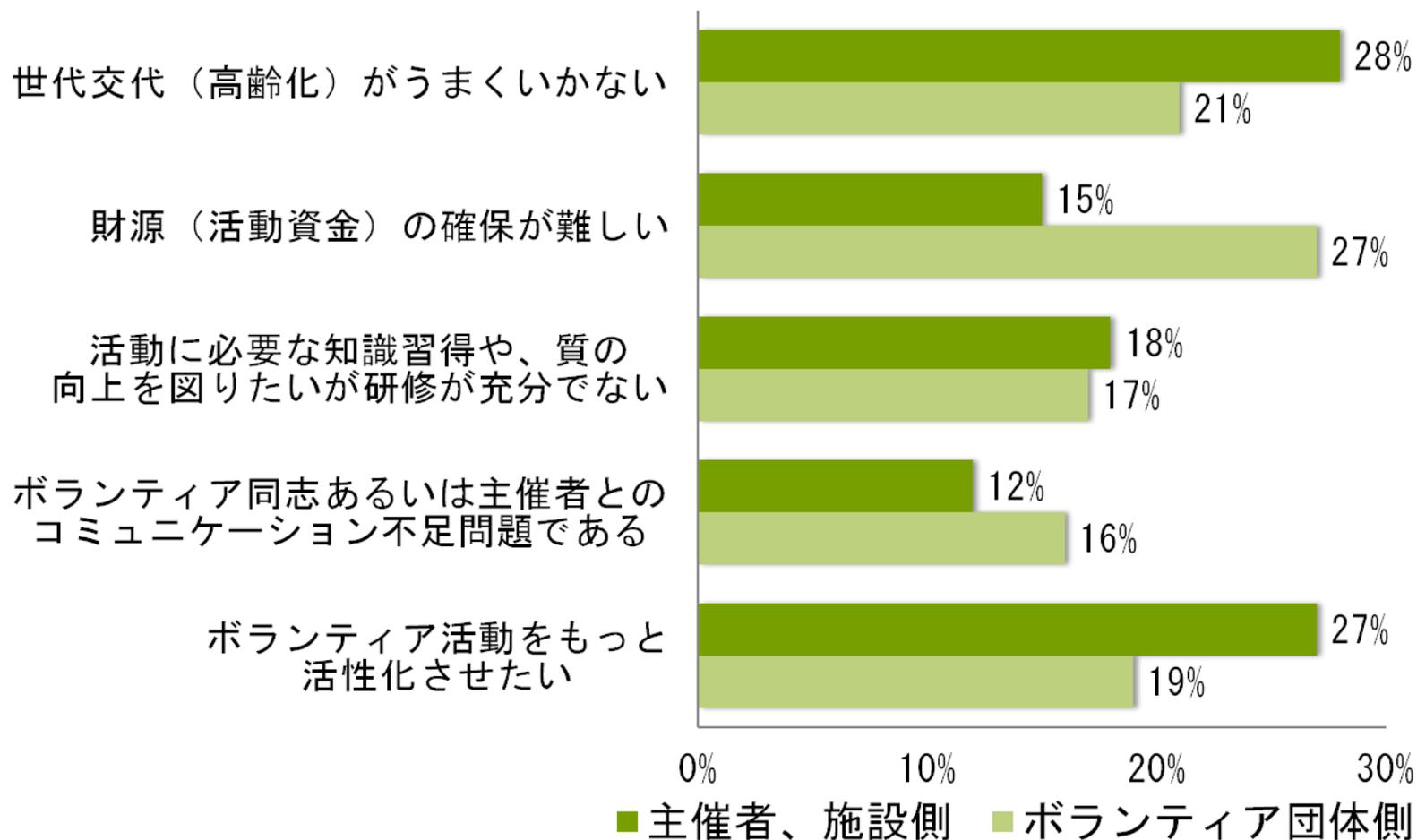
文化ボランティア活動に関するアンケート調査（文化庁、2003）

現在の活動（主要項目）



文化ボランティア活動に関するアンケート調査（福岡県、2012）

文化ボランティア団体の悩み、課題



全国からみた福岡における
文化芸術活動と文化ボランティア

全国からみた福岡における 文化芸術活動と文化ボランティア

- **近年の動きや統計資料から見えること**
- **他地域（九州地方や他の都道府県）との比較から**
- **個人的な経験と印象から**

ホールが生んだ文化ボランティアの事例

北九州国際音楽祭 | 佐藤さん

- 1988年開始、四半世紀の歴史！（響ホールは1993年開館）
- 当初は企画の担い手の中心、現在は側面支援
- ボランティアは「チケットを購入して」コンサートを鑑賞
- チケット販売のスタイルの変化とボランティアの役割の変化
 - チケット販売を通じたコミュニティの交流や活性化
- 高齢化の進展／元気なお年寄り／「みっともない」
 - 超高齢化時代の文化ボランティアの手本として
 - 「25年間の経験」を持つ希少な人材の蓄積
- 地域内の複数の文化ボランティアへの波及効果

ホールが生んだ文化ボランティアの事例

筑紫野市市民劇

- 自主事業選定委員会「当事者意識を持っていただく」
- 財団スタッフと一緒に忘年会、交流の深化
 - 地域文化資源の総活用、化学反応、波及効果
- 「ザ・裏方」Tシャツ制作、名前を出す、一体感を生む
- 新住民と旧住民の距離を「歴史」で埋める
- 地域との結びつき、市民との関わり、ボランティアの支え
- 「いい循環」「ネットワーク」を生み出すために
- 文化会館が市民にとっての「身近な」存在であるように
- ルーティンワークだけではなく、インパクトも必要

ホールが生んだ文化ボランティアの事例

サザンクス筑後

- 「人づくり」としての市民ミュージカル
- ボランティアマネジメントの体制づくり
- 国民文化祭をきっかけとしたボランティア活動、地域通貨
- 浮上した課題…実働者減少、地域通貨の見直し、高齢化
- 有償ボランティアへの切り替え、研修講座、文化教養講座
 - ボランティアの責任と自己実現
- 緋のベスト、ネクタイの着用
 - ボランティアのプライド（誇り）
- ボランティアの世代交代（子ども～子育てを終えた大人）